

第6回 肝属川水系ダム洪水調節機能協議会

令和8年3月17日
大隅河川国道事務所

1. 肝属川水系ダム洪水調節機能協議会の取り組み

○関係者(河川、ダム、利水、地域)の密接な連携により、洪水調節機能向上の取組を効果的に実施することを目的として、令和3年9月に肝属川水系ダム洪水調節機能協議会が発足。

第1回 R3.9.30(書面開催) 肝属川水系ダム洪水調節機能協議会

規約を策定

第2回 R4.2.25 肝属川水系ダム洪水調節機能協議会

第3回 R4.12.22 肝属川水系ダム洪水調節機能協議会 幹事会
R5.3.23 肝属川水系ダム洪水調節機能協議会

第4回 R5.12.26 肝属川水系ダム洪水調節機能協議会 幹事会
R6.3.15 肝属川水系ダム洪水調節機能協議会

第5回 R6.12.16 肝属川水系ダム洪水調節機能協議会 幹事会
R7.3.12 肝属川水系ダム洪水調節機能協議会

第6回 R8.1.15 肝属川水系ダム洪水調節機能協議会 幹事会
R8.3.17 肝属川水系ダム洪水調節機能協議会

2. 肝属川水系における令和7年度の事前放流実績

事前放流（ガイドライン） R2～

全国の利水ダム等に掲示された「事前放流ガイドライン」に基づき、ダム上流の予測降雨量が基準降雨量（降雨継続時間6時間）以上であり、かつ事前放流が必要と判断されるときに貯水位限度まで事前放流を実施する運用を開始。

	高隈ダム	荒瀬ダム
基準降雨量	176mm	196mm
貯水位限度	155.0m	143.52m
常時満水位	158.0m	144.0m
洪水調節可能容量	299.4万 ³	7.0万 ³

高隈ダムの臨機措置に基づく事前放流 H29～

平成28年の台風16号豪雨を受けて、九州農政局、鹿児島県、笠野原土地改良区、鹿屋市等関係機関により「高隈ダムの臨機措置等に係る連絡調整会」を設置。

協議の結果、高隈ダム操作規程に基づき、災害未然防止を目的に気象状況により笠野原土地改良区が協力できる範囲でダム水位を下げる運用（臨機措置に基づく事前放流）を開始。おおむね満水位から2～3m下げる操作を行う。

令和7年度 事前放流実施状況

※高隈ダム

- 事前放流（ガイドライン） 実施なし
 - 事前放流（臨機措置）
 - 8月24日 7時00分 前線接近に伴い放流開始
 - 9月12日 16時00分 放流停止
- （※参考 R6年度 4回実施）

※荒瀬ダム

- 事前放流（ガイドライン） 実施なし
- （※参考 R6年度 1回実施）



放流の効果

※高隈ダム

前線の接近に伴い、貯水位を低下させて大雨に警戒していたが、予報を下回る流入となり事なきを得た。

8月24日 7時00分～9月12日 16時00分 洪水調節：約190万³実施

【参考】R7最大流入量：36³/s R7総降雨量：10ヶ年で最低の見込み

3. 高隈ダムにおける堆砂対策について

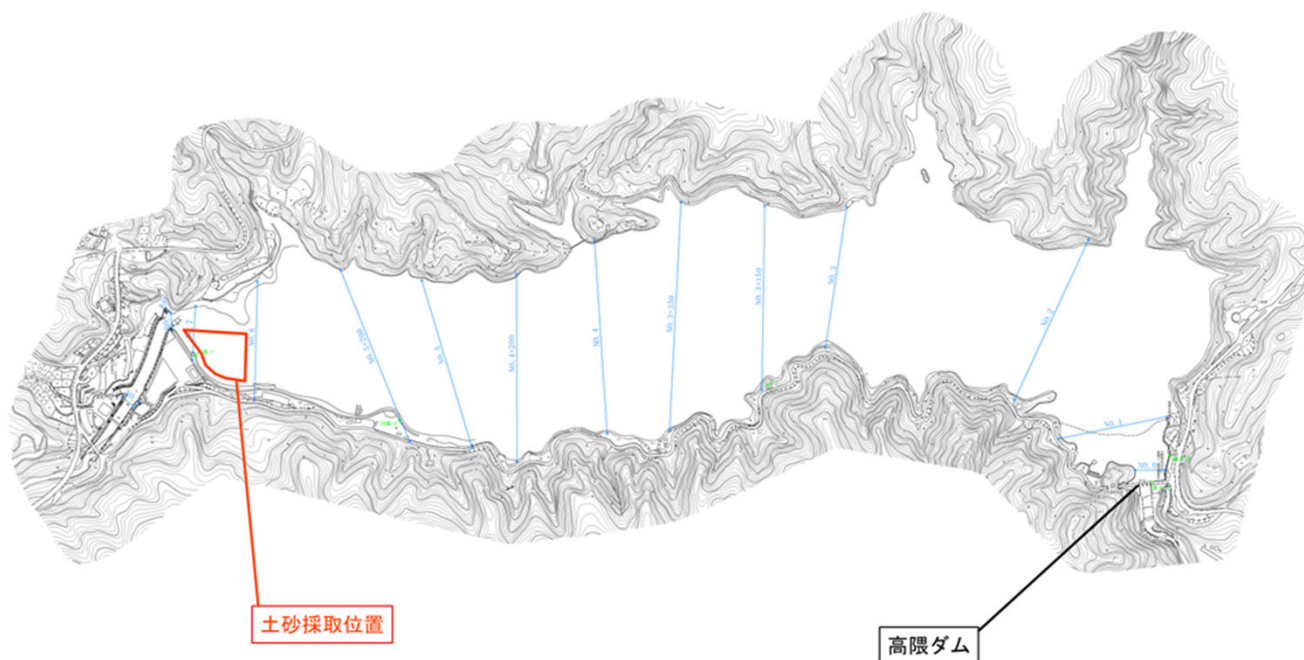
○応急的な堆砂対策

- 高隈ダムは、平成28年台風16号に伴う記録的な豪雨により大量の土砂が流入し、大幅に堆砂量が増加。利水及び有効貯水量を最大限活用した洪水調節可能容量を確保するために堆砂対策が必要。
- 応急対策として、土地改良区が土砂採取（堆砂除去）業者を決定し、令和4年8月から堆砂除去工事を実施中であり、令和7年10月末までに約42,000 m³を除去している。
- 応急的な堆砂対策と並行して恒久的な堆砂対策の検討を進めている。

堆砂除去工事前（令和2年6月5日時点）



堆砂除去工事状況（令和7年11月17日撮影）



土砂採取（堆砂除去）実績

R4年度（R4.8～R5.3）	5,000m ³	
R5年度（R5.4～R6.3）	10,000m ³	
R6年度（R6.4～R7.3）	15,000m ³	
R7年度（R7.4～R7.10末時点）	12,000m ³	累計42,000m ³